

船舶インシデント調査報告書

令和2年2月26日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|---|
| インシデント種類 | 運航不能（絡索） |
| 発生日時 | 平成31年4月8日 12時45分ごろ |
| 発生場所 | 山口県萩市櫃島北西方沖 萩大島港赤穂瀬南防波堤灯台から真方位324° 2.5海里付近 （概位 北緯34° 31.4′ 東経131° 23.0′） |
| インシデントの概要 | プレジャーボートYUKIYAは、揚錨中、錨索がプロペラ翼に絡んで運航不能となった。 |
| インシデント調査の経過 | 平成31年4月22日、主管調査官（門司事務所）を指名原因関係者から意見聴取実施済 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | プレジャーボート YUKIYA、5トン未満（長さ7.14m） |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 291-29591山口、株式会社雪矢重機 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、一級小型・特殊・特定 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | なし |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北、風速 約10～15m/s、視界 良好 海象：波高 約2.5m、潮汐 下げ潮の中央期 |
| インシデントの経過 | <p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人1人を乗せ、既に天候が悪化し、更に悪化する予報であったので、釣りを中止して帰港しようと機関を前進と中立を繰り返し使用しながら船首から投入していた錨を揚げていたところ、機関が停止し、運航不能となった。</p> <p>本船は、錨索が緊張したままで巻上機が動かなくなったので、船長が、錨索がプロペラ翼に絡んだと判断して118番通報し、来援した海上保安庁の巡視艇によりえい航されて萩港に入港し、プロペラ翼に絡んでいた錨索が取り外された。</p> <p>船長は、強風下で揚錨する場合、船体が圧流されて錨が引きずられないように、断続的に機関を前進としていた。</p> |
| 分析 | 本船は、風速約10～15m/sの北風及び波高約2.5mの波がある状況下、船長が、帰港しようとして機関の前進と中立を繰り返し使用しながら揚錨中、緩んだ錨索がプロペラ翼に絡んだことから、運航不能となったものと考えられる。 |
| 原因 | 本インシデントは、本船が、風速約10～15m/sの北風及び波高約2.5mの波がある状況下、船長が、帰港しようとして機関の前進と中立を繰り返し使用しながら揚錨中、緩んだ錨索がプロペラ翼に絡んだため、発生したものと考えられる。 |
| 再発防止策 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 |

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・揚錨時、機関を前進とする場合は、前進して錨索が緩み過ぎないようにすること。・天候の悪化が予想される場合は、早めに帰港すること。 |
|--|---|